

我が国の大学が目指すべき将来像についての会長談話

日本学術会議では、国の内外に対して、広く日本の学術研究の方向・展望を提示することを目的として、昨年から、総力を挙げて「日本の展望—学術からの提言 2010」（注）の作成を進めてきています。この中で、人材育成と国民の生涯学習の両面から、中長期的視点で我が国の大学のあるべき姿を描き、そのような姿を実現するための方策についても検討してきたところです。大学の扱いについては、今回の行政刷新会議での事業仕分けにおいても多少の議論がありましたが、ここで「日本の展望」の取りまとめの議論を踏まえて、我が国の大学が目指すべき将来像について、日本学術会議としての考えを改めて述べたいと思います。

知を尊重する心を駆動力として、人類社会に貢献する豊かな知識基盤社会を構築するためには、大学の門戸を拡げ、人材育成の質を一層向上させることが不可欠です。このことを日本の国家的な命題として位置付け、我が国の大学が、以下のような将来像を実現することを目指すべきであると考えます。

- (1) 様々な能力に秀でた多様な人材を生み出す、輝く個性と優れた機能を有する、知の連山としての国公私立の大学
- (2) 国際レベルの質の高い高等教育の機会を提供し、高度の専門的知識と市民的教養の教育の達成度を保証する大学
- (3) 国民の一人一人が、より成熟した世界観、価値観を獲得できるよう、人生を主体的に設計する過程で、必要な高等教育を求める時期に享受する機会が得られるような、柔軟な制度を有する開かれた大学
- (4) 性別、年齢、社会経験などに関わりなく、内外から多様で多彩な人材を受け入れるとともに、広く人材を世界に送り出し、国境を越えて優れた人材の交流の架け橋となる大学
- (5) きめ細かい公的支援に支えられて、多様な教育研究理念を持ちながら切磋琢磨し、継続的な改革を自律的に進める大学

このような大学の将来像を実現していくことにより人材育成を成し遂げ、その結果として国家を再構築することこそ、我が国が、21世紀の知識基盤社会、多文化社会、生涯学習社会へと向かうほとんど唯一の道であると考えます。

そのためには、国民に対する高等教育の修学奨励と、国公私立大学の教育研究基盤と経営基盤の強化が取り分け必要です。これに関しては、当面OECD諸国の平均水準を指標として、公的支出レベルに抜本的な充実が図られることを期待するところです。

新政権の下で、いずれ中・長期的な視点から、我が国の大学が目指すべき将来像の明確な国家ビジョンが掲げられるものと思いますが、その実現を可能にするのは、高等教育に対する的確な「まなざし」と、具体的な「支援」であると考えます。心から期待しています。

注) 「日本の展望—学術からの提言2010」の素案は、学術会議のHPで公開されています。
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/tenbou/pdf/soan.pdf>)

平成21年12月7日
日本学術会議会長
金澤一郎